

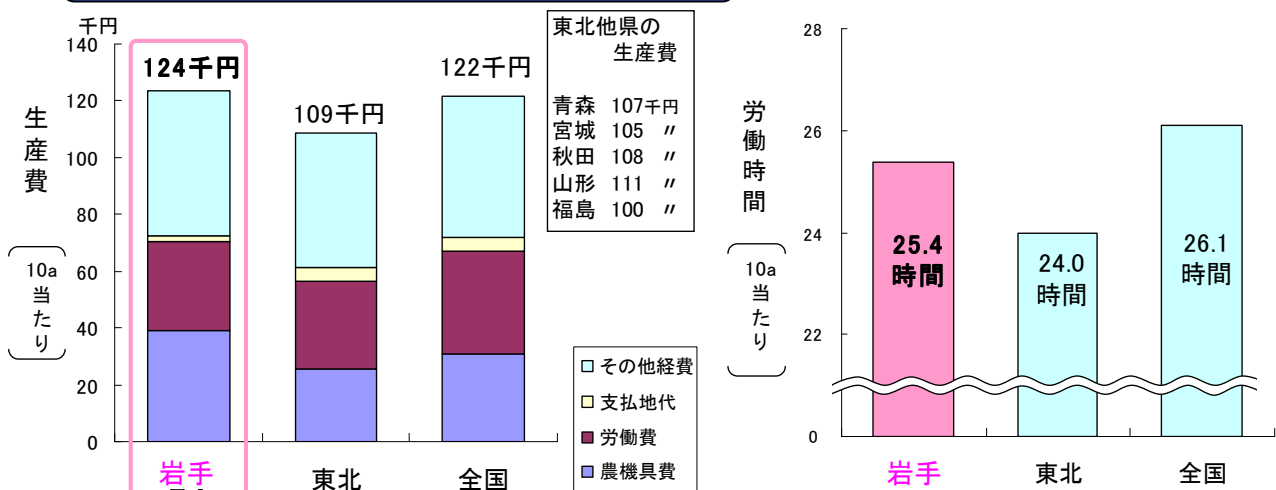
ほ場整備による米の生産コスト低減効果

H25 年 8 月 岩手県農林水産部農村計画課

1 岩手県における米の生産コストの実態

- 本県の米の生産費は、東北で最も高く、生産に要する労働時間も東北平均より長い。
 - 1 経営体当たりの水稲作付面積は、東北平均より小さく、作付面積 1 ha 未満の農家が多い。
 - 一方、30a 区画程度以上の水田整備率は、東北及び全国平均より 10 ポイント以上低く、水田の整備が遅れている。
- ⇒ 米の生産費が高い主な要因として、1 経営体当たりの作付面積が小さく、農機具費が高いことがあげられる。また、水田整備が遅れていることなどから作業効率が劣り、労働時間が長くなっていると推察される。

(1) 米の生産費・労働時間



※農林水産統計から 「H23 年産 生産費 (支払利子・地代算入) と労働時間」

- 生産費のうち農機具費が、東北平均より 1.5 倍高く、その他の経費 (種苗費、肥料費、農業薬剤費、光熱動力費) も東北平均より高い。
- 労働時間のうち、機械作業となる耕起代かき、田植のほか、管理 (水管理等) に要する作業時間も東北平均より長い。

(2) 米の作付規模と水田整備率

	岩手	東北	全国	
1 経営体当たりの作付面積 ha	1.22	1.54	1.17	
作付規模別の農家戸数割合 %	1ha 未満	67.6	57.6	72.4
	1~2ha	21.0	23.7	16.4
	2~3ha	5.6	8.5	4.7
	3~5ha	3.3	6.0	3.3
5ha 以上	2.5	4.3	3.2	
水田整備率 (30a 区画程度以上) %	50.3	64.6	62.9	

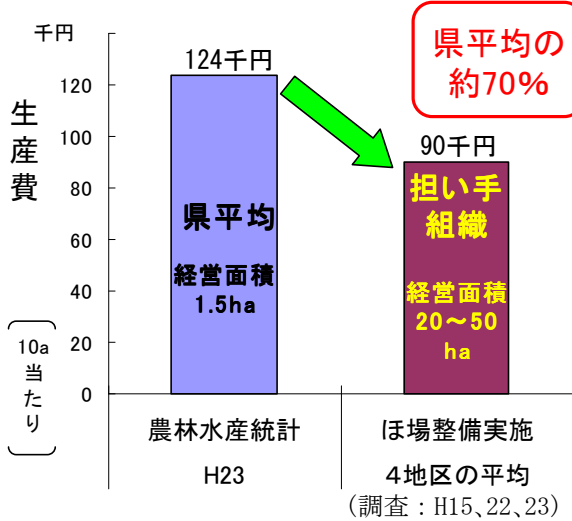
※作付面積、農家戸数：2010 農林業センサス

※水田整備率：農業基盤情報基礎調査報告書 (H22 実績)

- 作付規模 1ha 未満の農家の割合 (67.6%) が、東北平均 (57.6%) に比べ高い。
- 30a 区画程度以上の水田整備率 (50.3%) が、東北で最も低く、全国平均 (62.9%) より 10 ポイント以上低い。

2 ほ場整備実施地区における米の生産コスト

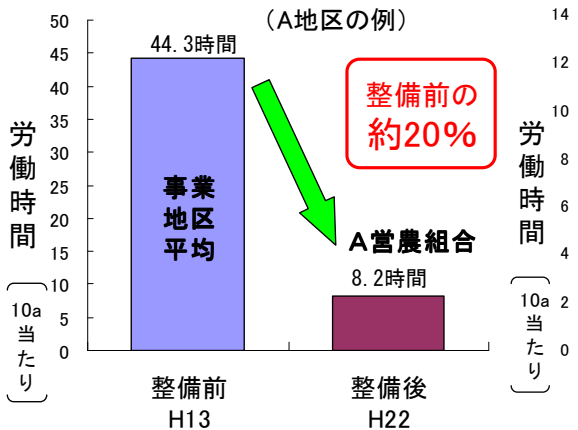
(1) ほ場整備実施地区の米の生産費



○ ほ場整備を実施した地区では、担い手営農組織が育ち、米生産費は、県平均の約70%に低減されている。

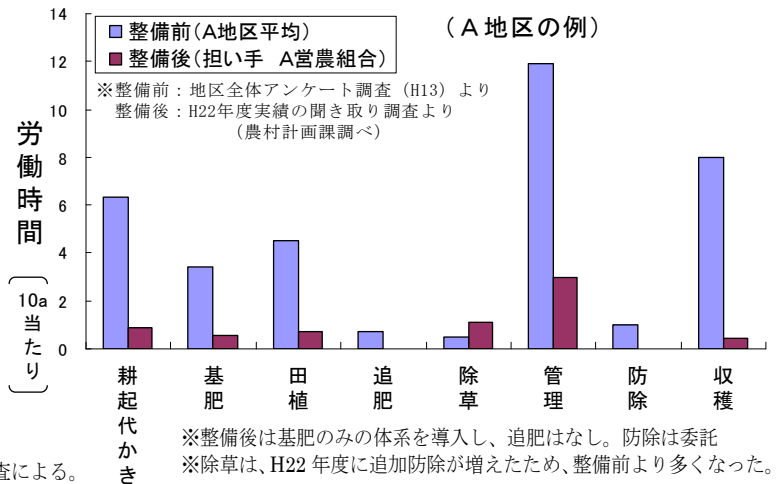
※ほ場整備実施4地区は、二子（北上市）、宮守川上流（遠野市）、原体（奥州市江刺区）、長岡（紫波町）

(2) ほ場整備前後の労働時間



※乾燥調製に係る労働時間は除く
※整備前は事業計画書、整備後は農村計画聞き取り調査による。

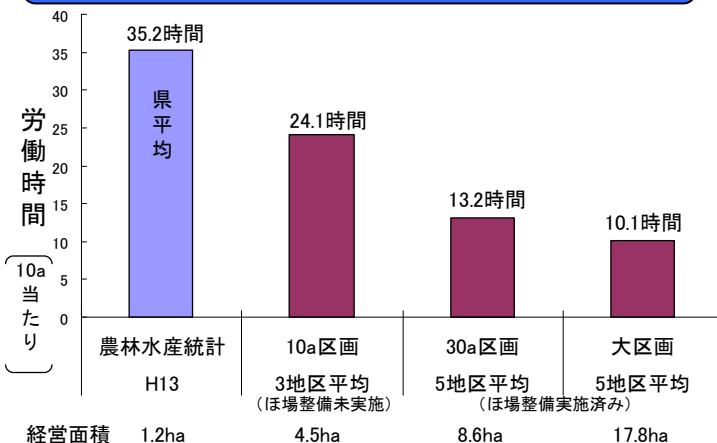
〔作業別の内訳〕



- ほ場整備実施地区における担い手営農組織の稲作に要する労働時間は、整備前の地区平均の約20%に短縮されている。
- 作業別では、耕起代かき、田植、収穫の機械作業や、管理（水管理等）などで大きく短縮されている。

〔参考〕担い手集積地区における労働時間

(※平成15年稲作指導指針から)



- 担い手に農地利用集積が進んでいる地区の労働時間は、県平均より短縮されている。
- また、区画が大きくなると労働時間が、より短縮されている。

※調査年次と同時期の統計数値（H13年度農林水産統計）と比較

3 ほ場整備による生産コスト低減効果(モデル試算)

ほ場整備によって、生産コストがどの程度低減できるのか、試算したところ、

[モデル：経営規模3haの担い手が、ほ場の大区画化と経営規模拡大を実施した場合]

- **ほ場の大区画化**によって作業効率が大幅に向上し、**労働時間は40%短縮**、**生産費は7%低減**できると見込まれる。
- さらに大型機械の導入と農地利用集積により**経営規模を拡大**した場合、**労働時間の60%短縮**、**生産費の25%低減**が期待できる。

(※ゲル条件での相対評価の一例であり、条件によっては結果が異なる。)

ほ場整備の
生産コスト
低減効果

ほ場の大区画化

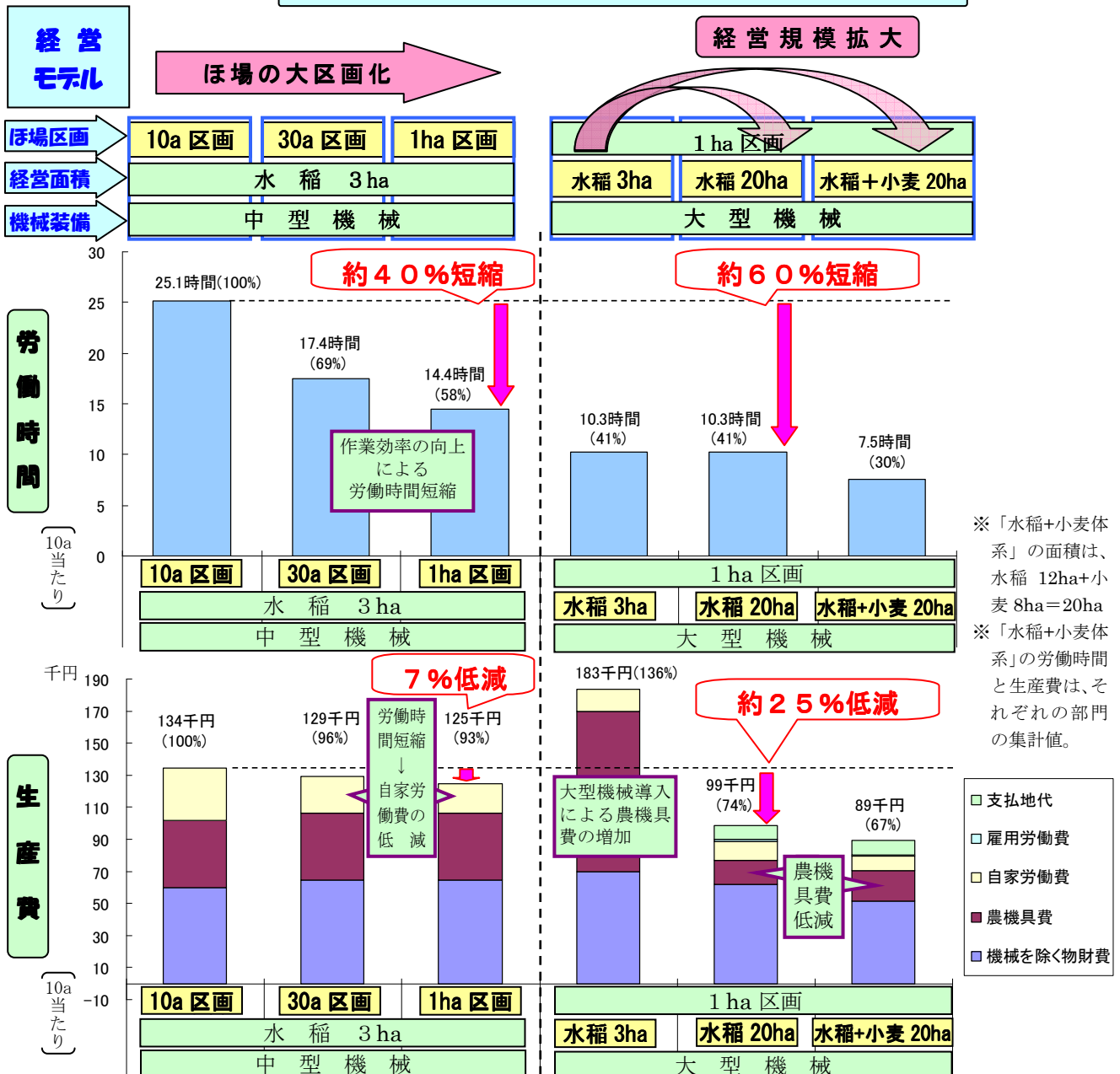
作業効率向上によるコスト低減



規模拡大

大型機械・農地利用集積によるコスト低減

経営モデル を設定し、2つの効果を段階的に試算・評価



※「水稲+小麦体系」の面積は、水稲 12ha+小麦 8ha=20ha
 ※「水稲+小麦体系」の労働時間と生産費は、それぞれの部門の集計値。

※「生産技術体系 2010」を参考に試算。農機具費は、農林水産統計の規模別生産費を参考に試算

4 ほ場整備の効果(まとめ)

ほ場整備事業

ほ場整備

- ・ 区画整理
- ・ 農道の整備
- ・ 用排水施設の整備
- ・ 暗きょ排水の整備

一体的推進

農地利用集積

- ・ 担い手の育成
- ・ 担い手への農地集積
- ・ 分散錯ほの解消
(農地の集団化)

ほ場整備事業は、ほ場整備と農地利用集積を一体的に推進

ほ場整備の効果

作業効率向上

- ・ 機械の作業効率が向上
- ・ 水管理等の栽培管理が省力化

水田汎用化

- ・ 暗きょ排水、排水路の整備で排水能力が改善
- ・ 作業性が向上
- ・ 麦、大豆等の転作作物の安定生産が可能

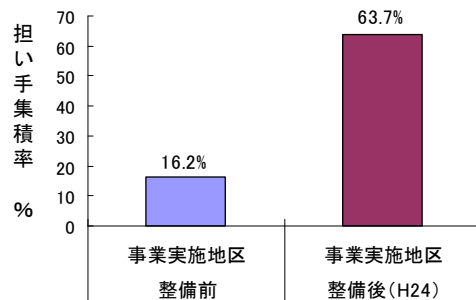
大型機械導入

- ・ ほ場の区画整理、大区画化により、大型機械の導入が可能

農地利用集積

- ・ ほ場条件が改善され、農地の賃貸借や作業受委託が進展
- ・ 担い手への農地利用集積により、経営規模が拡大

担い手への農地利用集積状況



※H3年度～H24年度に事業着手し完了した76地区を集計(農村建設課調べ)

生産コストの低減

